

みんなのひろば

視点

私がエビテーゼという補填修復物の存在を知ったのは今から20年以上も前、歯科技工士専門学校に通っていた時でした。歯科技工士専門学校とはその名の通り口腔内の歯科補綴物（銀歯や入れ歯など）を製作する技術者になるための専門学校です。

父が歯科技工士という職に就いており、幼いころから身近に感じていたためか「将来の夢」と問われると「歯科技工士」と答えていた記憶があります。

高校を卒業して通った学校は父が卒業した埼玉歯科技工士専門学校。幼いころ父の傍らで見ていた歯科技工の仕事に憧れ、父のように仕事が出来たいと思う反面、いざ自分が作ってみるとやはりそこは山あり谷ありでつまづくことも多くあり、挫折しそうになることもしばしばありました。そんな学校生活の中で、歯科補綴物以外で一瞬にして引き込まれたのが今のエビテーゼにつながる「顎顔面補綴」という分野でした。

顎顔面補綴とは腫瘍・外傷・炎症、先天奇形などが原因で顔面または顎骨とその周囲組織に生じた欠損部を非観血的に、あるいは手術との併用により人工物で補填修復し、失われた機能と形態の回復をはかることです。（『歯科技工学

用語集』医歯薬出版）。
授業でほとんど触れない分野でしたが、なぜ顔面の補填で、なぜ顔面の補填が必要なのか、誰が何のために作るのか、そんな疑問と自分でも作ってみたいとい



高崎市片岡町

はぎわら けいこ
萩原 圭子

歯科技工士

募る思い、本気の夢に

した。専門誌や学会などで情報を得るたび学びたいという思いは募るばかりです。10年以上思い続けていると、浅はかな夢が本気の夢へと変化していきました。

当時は大病院などでの症例を見るのが大半でしたので、仕事として製作しているところもほとんどなく、製作方法など教えてくれる学校や施設など見つかりませんでした。募る思いとは裏腹に顎顔面補綴のことは半ばあきらめかけていた折、転機は訪れたのです。縁あって今でいうエビテーゼ・人工ボディーの作り方を教えている場所が見つかり、脇目も振らず学ぶことを最優先に1年間通い続けました。募る思い、本気の夢がかなった瞬間でした。

歯科技工士として学び得たスキルがあるとはいえ、困難なことでもたくさんありました。ですが、うまくいかないことがあってもなぜか苦痛ではなく「学びたかった、夢がかなった」という思いがネガティブな気持ちをほるかに上回り、むしろ「好きなことを学べるってなんて幸せなのだろう」と日々感激していました。私の人生最初のターニングポイントはエビテーゼを学べたこと、そしてこの時の気持ちを忘れないと胸に刻んだ時でした。

【略歴】歯科技工士の傍らエビテーゼの技術を学び、2011年に萩原歯研・エビテーゼ製作室メダイカルラボKを開設。

製作技術者の育成にも取り組み。高崎市出身。

エビテーゼと出会う①

オピニオン21

ホームページでも見られます。
アドレスは <http://www.jomo-news.co.jp/>